

台湾電力交流団が技術開発本部で電気自動車用充電装置を視察

中部電力と定期交流をするため平成21年9月15日から4日間来日していた台湾電力交流団が9月18日、技術開発本部で電気自動車用充電装置を視察されました。交流団長の李副社長から電気自動車の導入が進む日本の電力会社に電気自動車との関わりを聴きたいとの要望により急遽実施したものです。交流団員からは、「充電ステーションはどう整備していくのか」、「充電プラグの形状は統一されているか」など質問が数多く出され、日本での電気自動車普及の取り組みを熱心に聴かれています。



電気自動車を視察する交流団員

第54回 澁澤賞受賞

第54回(平成21年度)日本電気協会・澁澤賞授賞式が11月24日、東京都内にて行われ、賞状ならびに記念品が受賞者に贈呈されました。澁澤賞は、故澁澤元治博士が昭和30年に文化功労者として表彰を受けられた栄誉を記念するため、昭和31年に設けられたものです。本賞は、電気保安に傾注された博士の意を体して、広く電気保安に優れた業績を上げた方々に毎年贈られており、民間で唯一の電気保安関係表彰として各界より認められている権威ある賞です。

今年度、当社からは、「低圧用潮流制御装置の開発」と「音カメラの開発」が発明・工夫部門で受賞しました。

このうち、エネルギー応用研究所 お客さまネットワークグループの上田研究副主査、石田主任の開発された「低圧用潮流制御装置」は、工場内に設置されている複数の変圧器を、本装置を介して低圧側で接続し、変圧器

にかかる負荷電流を相互に融通させて、任意の電流に制御することが可能となります。その結果、変圧器稼働率の調整による設備の有効活用、効率的な運用による設備投資の抑制、変圧器で発生する損失の抑制などの効果をあげています。



授賞式会場にて(右端 上田さん、右から3人目 石田さん)

「中部電力地球温暖化対策研究」の委託実施

技術開発本部では地球温暖化防止につながる萌芽的技術について地域の主要大学、および公的研究機関から研究テーマを募集し、多数応募の中から「CO₂親和性を有するマイクロポーラスCO₂選択透過膜の開発(財団法人ファインセラミックスセンター)」、「高濃度二酸化炭素溶解法を用いた大型藻類の培養槽の設計と実験(中部大学)」、「山岳地風況下での風向変動が及ぼす風車翼性能に関する評価・分析(三重大学)」の3件の研究を実施することになりました。今回実施する研究についてはいずれも「CO₂削減に貢献する技術」であり、発展的な継続や、電力設備への適用を視野に入れて採択しました。

当社では地球温暖化防止への取り組みを重要な経営課題のひとつと位置付けて、高効率火力発電技術の導入や原子力発電の推進などを継続して行うとともに、平成20年度からは技術開発本部に「CO₂削減技術」を専門的に扱うグループを発足させております。今回、さらなるCO₂削減を目指し、地域と協力して幅広く技術開発を実施したいと考え、研究テーマの募集を行いました。

今回の募集により、当社が電気をお届けしている地域での産官学連携の推進、ひいてはアイデアの創出・検証などを通じて同地域内で活躍されている研究者の方々の研究活動の一助になればと考えています。